

業績目録の記入要領・記載例

- ※ 最近のものから順に記載すること。
- ※ 著者リストの本人の氏名を太字にて、下線をひくこと。
- ※ 共著者が多数の場合は適宜省略し、何人の共著者中の何番目の著者かわかるようにすること。
- ※ 印刷中のもので代表的なものは業績の中にも含めることができる。ただし、発行者側の査読等を経て正式に受理されたものとする。「印刷中」と明記するとともに、掲載証明書を添付すること。

1) 著書

- ・著者・書名・分担項目名・初頁～終頁・発行所・年の順に記載する。

1)	著書
1.	<u>滋賀 花子</u> 、 <u>滋賀 太郎</u> ：〇〇に関する研究、今日の外科治療 改定第2版（山田太郎編）、〇〇出版、50-75、2015
2.	<u>Shiga H</u> , Shiga T, Otsu A. Characterization of 〇〇. in Modern therapy (White PA. ed) Churchill Livingston, 25-32, 2010
3.	...

2) 学術論文

- ・著者・題目・雑誌・巻・初頁～終頁・年の順に記載する。
- ・最新版の JCR インパクトファクターと応募時点での引用回数（Web of Science あるいは Scopus を使用し、サイト名を明記）を記載する。
- ・査読の有無を記載する。
- ・別刷りで提出する主要論文には○をつける。
- ・Corresponding author である論文を明記する。
- ・共同で第一著者の場合等は PubMed などの順位のままとし、*マークを付けて equally contributed であると記載する。
- ・論文種類の定義については医中誌による分類法（<https://www.jamas.or.jp/database/policy2.html>）を参照のこと。ただし症例報告は下記の例の様に原著論文と分けて記載する。letter（論文形式でないもの）や commentary はその他に記載する。

2)	学術論文
	CI については Web of Science を使用し 2021/4/26 時点の内容を記載
	欧文原著
1.	Tokyo S, <u>Shiga H</u> , Miyagi A, Osaka B, Yamaguchi D, Shiga T. Preserving ■□cell function is the major determinant of △△in Japanese patients. Surgery . 159: 817-826, 2019 (IF: 3.356, CI: 5) 査読付
②.	<u>Shiga H (corresponding)</u> , Aichi H, Ehime O, Okayama T, Shiga T. Tyrosine kinase receptor TEX is a key regulator of oncogenesis in colon. Nature . 540: 547-555, 2018 (IF:42.779, CI:41) 査読付
3.	Chiba A*, <u>Shiga H* (equally contributed)</u> , Yamaguchi D, Osaka B, Nara B, Hyogo J, Shiga T. Impact of △△ in the patients with 〇〇 disease: a randomized clinical trial. Surgery . 160: 123-132, 2017 (IF: 3.356, CI: 24) 査読付
4.	...
	欧文総説
1.	<u>Shiga H</u> , Shiga T. Molecular mechanisms of oncogenesis of 〇〇 in humans and their potential links with Immune system. Cell . 150: 256-265, 2010 (IF: 38.637, CI: 756) 査読付
2.	...

<p>欧文症例報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Kumamoto A, Tokushima O, Kochi D, Shiga H, Okayama M, Yamaguchi D, Osaka K, Nara B, Hyogo J, Shiga T. A case of ○○ disease with family history of hypertension. BMJ open case reports. 160: 123-132, 2017 (IF 未掲載, CI: 3) 査読付 2. ... <p>欧文その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Shiga H, Shiga T. Molecular mechanisms of oncogenesis of ○○. What is the current challenge? Oncogene. 150: 256-265, 2010 (IF: 8.858, CI: 14) Commentary 査読付 2. ... <p>和文原著</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 滋賀 花子 (corresponding)、滋賀 太郎：●●に対する新規治療 XX の効果は長期予後に有用である、△△学会誌、12: 130-137, 2019 査読付 2. ... <p>和文総説(依頼原稿含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 滋賀 花子、滋賀 太郎：●●における XX の治療、○△学会誌、43: 13-17, 2014 査読付 2. 滋賀 太郎、滋賀 花子:最新の XX の治療に関する Topic、今日の○○、10: 250-256, 2013 査読なし 3. ... <p>和文症例報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 滋賀 花子、山口 大介、滋賀 太郎：○○病に対して新規抗がん剤 X が著効した一例、◆□雑誌、40: 12-18, 2018 査読付 2. ... <p>和文その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 滋賀 花子、滋賀 太郎：●●病治療ガイドライン 2018、△△学会誌、11: 1-12, 2018 ガイドライン 2. ...
--

3) 学会発表

- ・国際学会及び国内の全国規模学会での発表について、本人が筆頭演者のものに限り記載する。
- ・特別講演・シンポジウム・教育講演・一般演題（口演・ポスター）について、演者名・題目・学会名・発表年の順に記載する。

<p>3) 学会発表</p> <p><国際学会></p> <p>特別講演</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Shiga H, Shiga T. Molecular mechanisms of oncogenesis of ○○ in humans and their potential links with Immune system. 53rd Annual meeting of American Cancer Association, 2011 <p>シンポジウム・教育講演 なし</p> <p>一般演題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Shiga H, Kumamoto A, Tokushima O, Kochi D, Okayama M, Yamaguchi D, Osaka K, Nara B, Hyogo J, Shiga T. A case of ○○ disease with family history of hypertension. 54th Annual meeting of American Cancer Association, 2012 (口演) 2. Shiga H, Chiba A, Yamaguchi D, Osaka B, Nara B, Hyogo J, Shiga T. Impact of △△ in the patients with ○○ disease: a randomized clinical trial. 50th Annual meeting of American

Cancer Association, 2008 (ポスター)

3. ...

<国内学会>

特別講演

1. 滋賀 花子、山口 大介、兵庫 順次、滋賀 太郎. Impact of $\Delta\Delta$ in the patients with \bigcirc \bigcirc disease: a randomized clinical trial. 第 74 回日本外科学会年次学術集会、2017
2. 滋賀 花子 YIA 受賞講演 $\bigcirc\bigcirc$ の新規治療法の発見、第 60 回日本消化器 $\bigcirc\bigcirc$ 学会、2015

シンポジウム

1. 滋賀 花子 $\bigcirc\bigcirc$ が発癌に与える影響に関する網羅的解析、第 80 回日本消化器内科学会年次学術集会、2019
2. ...

教育講演

1. 滋賀 花子 $\bigcirc\bigcirc$ 病の Up to date、第 76 回日本外科学会年次学術集会、2019
2. ...

一般演題

1. 滋賀 花子、茨城 次郎、宮崎 礼、滋賀 太郎. レセプトデータを用いた $\bigcirc\bigcirc$ 病発症のメカニズムに対する探索的研究、第 76 回日本外科学会年次学術集会、2019 (口演)
2. 滋賀 花子、滋賀太郎 新規治療薬 X の $\bigcirc\bigcirc$ 病における有用性の検討 第 75 回日本外科学会年次学術集会、2018 (ポスター)
3. ...

4) 研究費受入

- ・過去 10 年間の各省庁・財団などからの研究補助金の受入状況について記載する。
- ・代表と分担に分けて、公的助成、民間助成について、研究助成の名称・年・取得金額・研究課題名を記載する。間接経費のあるものは総額及び直接・間接の内訳を明記する。分担は配分額を記載。

4) 研究費受入

<研究代表者>

公的助成

1. 科学研究費 基盤研究(B) 2019-2021 年、総額 1781 万円 (直接 1370 万円、間接 411 万円)
 $\bigcirc\bigcirc$ に対する新規治療薬 X の作用メカニズムの探索
2. 科学研究費 基盤研究(C) 2016-2018 年、総額 480 万円 (直接 367 万円、間接 113 万円)
日本人におけるメタボロミクス解析を用いた $\Delta\bigcirc$ の分析

民間助成

1. ABSC 財団 2020-2021 年、総額 200 万円
 $\bigcirc\bigcirc$ に対する根治療法の開発

<研究分担者>

公的助成

1. CREST 2015-2020 年、総額 1000 万円 (直接 700 万円、間接 300 万円)、配分額 100 万円
 $\bigcirc\bigcirc$ に対する革新的基盤研究 (研究代表者 山口 大介)
2. AMED 2015-2018 年、総額 3000 万円 (直接 2100 万円、間接 900 万円)、配分額 200 万円
ビッグデータを用いた $\bigcirc\Delta$ の分析 (研究代表者 滋賀 太郎)

民間助成

1. XYZ 財団 2019-2020 年、総額 300 万円 (直接 270 万円、間接 30 万円)、配分額 50 万円
 $\bigcirc\bigcirc$ に対する自律的分析システムの確立 (研究代表者 兵庫 順次)

5) 特許取得状況

・特許取得済と出願中に分けて、発明等の名称・番号・発明者・登録日あるいは出願日を記載する。

5)	<p>特許取得状況</p> <p>特許取得済</p> <p>1. 発明の名称：〇〇病診断プログラムの開発 特許番号：特許第 XXXXXXXX 号 発明者：山口 大介、<u>滋賀 花子</u>、滋賀 太郎 〇〇株式会社、△〇大学 登録日：2018 年 月 日</p> <p>特許出願中</p> <p>1. 発明の名称：△■〇の発症リスク判定方法 出願番号：特願 2020-0XXXXX. 発明者：山口 大介、<u>滋賀 花子</u>、兵庫 順次、滋賀 太郎 〇〇株式会社、△〇大学 出願日：2020 年 月 日</p>
----	--